

京都市基本計画 賛成討論

川嶋優子

公明党京都市会議員団は、議第 53 号京都市基本計画の修正案につきまして賛成の立場を表明しておりますので、その理由を述べ討論いたします。

今基本計画の策定に当たりましては、京都市基本計画審議会において、世界を見据え、100 年先も光輝き続ける京都の礎づくりに向けた検討がされました。U35—KYOTO プロジェクトの若い方も一緒になって練り上げていただき、パブリックコメントにより市民の皆さんのご参加をいただきまとめられました。計画の背景に、文化力をはじめ時代の潮流である「誰一人取り残さない」SDG's の達成、あらゆる危機にしなやかに対応するレジリエント・シティの向上、Society5.0 の実現をすべての分野に据えられたことは、私共公明党の理念と軌を一にするものであり、賛成いたします。このことが、具現化され京都の未来を開く、また、持続可能な京都のまちの構築に向けて進んでいく指標となる計画として、まずは市長がその先頭にたって、何としてもこの計画を遂行していく決意で進めていただくことをお願いいたします。

総括質疑において様々な議論がありましたが、特に 3 点について述べさせていただきます。

まず、行政経営の大綱について申し述べます。歳入・歳出両面にわたって財政構造の抜本的な改革が急務であることは異論はありません。本市の財政の持続可能性を高め、将来世代にわたって市民生活の安心を保証していくためには、「住まい」と「仕事」を確保し、京都市内の定住人口、とりわけ現役世代の厚みを増す確かな施策とともに、文化の力による経済振興や社会的困難の解決を着実に進めるべきです。また、歳出改革の推進においては、市民の皆様のご理解を得ることはもちろん、市民生活の実態、市民の幸福度をしっかりと点検し、行財政改革と市民生活のバランスを図りながら、市民が安心を実感できるよう今後の予算編成において、具体的に推進していただきたいと考えます。

次に若者の参画についてであります。今回の計画は 5 年間となっております。その未来を支えるのは若者であります。基本計画を進めていくにあたっては、若者の参画ということに取り組んでこられました。U35—KYOTO プロジェクトの事業内容は、足りないところを埋めていくというような暖かなまなざしがあることに京都の未来に光明を見出す思いがいたしました。こうした発想は、決して若者だけに生かされるものではありません。今後も本計画を進めるにあたってはぜひ、職員の方も含めた若者のご意見や発想を大切にしていきたいと思っております。そして、若者が住みたいと思える、希望がもてる

まちをつくっていくことが、京都の希望と未来を開いていくことにつながると確信いたします。

3点目に、この計画を市民と共に作り上げていくという視点で、象徴的になる計画の名称について申し上げます。総括質疑の議論において、「はばたけ未来へ！京プラン」という名称は 第二次基本計画時に募集をして決定され、当時「未来へはばたく」ということをイメージして命名されたということ、そして第二次の計画が順調に具現化されおり、その前計画を継承していくということで 今回「はばたけ未来へ！京プラン」の名称を継承し2025を追加したとご説明いただきました。今、 コロナウィルス感染症の拡大とそれに伴う社会的・経済的な混乱に直面していることに加えて、本市の厳しい財政状況、深刻化する気候変動の問題等これまで経験したことのない危機に直面している状況下にあつて、今計画は「新しい時代創造への挑戦」であり「希望かがやく未来」を描くものであるべきと考えます。そういった意味から考えますと、今回の名称がそれにふさわしいものとなっているか疑問に感じるところです。実行にあたっては、未曾有の危機による暗雲が垂れ込める中にあつて、社会の大きな変化に対応し、先を見据えた新たな展望を開いていく。ここから明るい未来をつくっていくんだという市長の覚悟を打ち出していきたいと考えます。市民が「共感」「共働」できるキャッチフレーズや愛称の検討など「伝わる」力を発揮していただき、ありとあらゆる機会を通してメッセージを分かりやすいかたちで発信していただくことを求めています。

最後に、本市が長年にわたり育んできた市民力・地域力・文化力を生かして、どこまでも生活者を基点とした未来像を市民の皆様と共有し、力強い経済と都市の活力の創出に向け、共に希望の持てる未来を切り開いていかなくはなりません。私たち公明党といたしましても、あらゆる方が安心・安全で幸福を実感できる京都の実現に向けて共に取り組むことをお誓いし賛成討論とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。